

飯田高校同窓会報

第17号

発行人 飯田高等学校同窓会長 長野 逸人 武雄
 編集人 飯田 吉
 印刷所 飯田 共同印刷 (株)

昭和54年度 定期総会

期日 八月廿一日(日) 午後一時
 ◎会場 飯田高校同窓会館
 ◎記念講演 本島健次先生(中学37回)
 (講師紹介)
 飯田中・八高・京大を卒業。理学博士。前日本原子力研究所所長。現日立研究所・エネルギー研究所技師長

今日、さまざまな問題を呼び起こし、多くの反対運動も見られる「原子力」がなぜ、一層開発されていかなければならぬのか。この点に焦点をあてて講演をいただきます。

校史編纂着々と

昨年(昭和53)の二月に校史編纂委員会が発足し、三十余名の委員によって執筆にとりかかった。これらの委員の手になる第一次原稿は昨年の九月末日までにできあがり、目下、来春五月の刊行を目ざして、第二次原稿の執筆を精力的に進めている。

80周年記念事業

資料委員会が集めた諸資料をもとに、原稿執筆のため、編纂委員が、五三年二月二五日に発足し、さらに三月二五日の第二回委員会で班別を決定し、九月末日を目処に第一次原稿の作成にとりかかった。

資料委員会は、各委員の努力によって、予定どおり、九月末までに大半の原稿の提出をみた。

一月四日、編纂委員会を開催、企画委員会から提案された目次(章・節・項目)および内容について検討し、第二次原稿作成のための体制を正式に承認した。

企画委員会は毎月定期的に行なわれ、校史編纂の進捗にあたっては、二月には北原明治委員長によって資料として集められた約六百枚の写真を複製した。

第三次原稿を一〇月末までに完成し、印刷所にまわして、来年五月頃には刊行する予定である。

同窓会 事務局長交代

事務局長として九年有余勤めていた熊谷利作氏(中29)が、昨年十二月末日をもって退任され、新たに番木村出身の羽生英尚氏(中37)が就任しましたので、御報告と御紹介を致します。



▲熊谷前事務局長



▲羽生新事務局長

御挨拶
 頑健を自負していた私が不覚にも病に冒され、昨年十二月はじめて入院するこゝろになったため、十二月末日を以って退任させていただきます。昭和四十四年九月以来九年余、事務局専任として勤めさせていただきましたが、各位の御指導や激励の御温情を賜ったおかげで、どうやらつとまっております。ありがとうございました。心から感謝申し上げます。

幸い、優秀な後任に恵まれて、心おきなく療養でき、熊谷前事務局長さんには九ヶ年有余の長い間、温厚

就任挨拶
 余りにも突然に、事務局の仕事が、思いもよらぬ私の所へ来て、二月上旬より勤めさせていただいています。

飯田高校同窓会は、学校と共に古い歴史と伝統とを誇っています。それだけに会員も多く、仕事は多種多様で、前任の熊谷利作事務局長さんの御骨折れも並大抵ではなかったかと存じ、感謝申し上げます。

熊谷前事務局長さんには九ヶ年有余の長い間、温厚

会 員 数			
中学計		現 生 徒 数	
	4,430	男	女
高校計	11,284	1年	263 108 371
合 計	15,714	2年	263 110 373
		3年	265 110 375
		計	791 328 1119



班別は次のとおり。
 (一)制度 (二)創業 (三)学校組織 (四)教育内容 (五)学園生活 (六)学校周辺 (七)エピソード (八)年表その他
 これらの班は、それぞれ関係する資料をもとに原稿を執筆し、仕事を進めた。九月六日、班長会を開催し、その進捗状況を報告、問題

7月14日(土) 16日(月)

第24回 高松祭

テーマを「原点への帰還」として、お祭り化する近年の文化祭を見つめ直すようと準備を進めています。

多数の御来場をお待ちしています。

飯田市立病院にて 熊谷 利作

誠実に、而も熱心にその腕をふるって勤められ、今日の立派な事務局の基礎を作った功績は、極めて大なるものがあります。それに引き替え私は、斯うした仕事は全くの素人にて、皆様方に種々御迷惑をお掛けすることが多いかと

存じます。しかし、一旦お引受けしました上は、前事務局長さんの名を汚さぬよう、又本会発展のため最善の努力を致す覚悟であります。皆様方の遠慮のない御叱正と絶大な御協力を、就任の御挨拶と致します。

羽生 英尚

独立記念日

武田太郎氏(高2卒)を迎えて

去る四月十六日(月)、独立記念日(十五日)に当り、高二回卒の武田太郎氏を迎えて「伊那谷と民俗学」と題して記念講演が行われた。

武田太郎氏は、本名小林秀雄、本校卒業後、

早大仏文学、ひき続き二年間、早大大学院

仏文学攻後帰郷、家業(長姫タクシー・ターミナル長姫経営)ハイヤー協会会長)につかされる。生活者として地方に住み、中央に作品を発表する舞台をもって、物をいえる姿勢をもち続ける。詩人としての眼で執筆活動をしておられる。著書に「天竜川」「折口信夫紀行」「幻想の伊那谷」「谷の思想」などがある。

講演は、一時間二十分位にわたり、先ず武田太郎というペンネームの由来より話され、民俗学の必要性、郷土に住む青年達には非民俗学のお話しを聞いて貰いた

めずらしいお墓の石塔のお話し、飯田地方に住む人種の山の仕事をされる人、落人、平岡の熊谷家の家伝記と話しが進み、菊の紋章のはじまり等飯田下伊那の民俗学にまつわるお話しを様々な興味ある実例をひかれ、わかり易く実に親しみ深く、巧みな話術で話しが進められ、皆時間のたつのも忘れ、生徒諸君も郷土を愛し、自分達の昔から伝わるお祭り等を大切に守ってゆく気持ちを強く抱いたことと思えます。非常に有意義な講演会であった。講師小林秀雄氏に紙面をおかりして厚く御礼申し上げます。

いと強調され、家紋の話しに入り、終戦当時のこと、証拠にもとづく歴史の研究作業、歴史の時代による見方の変遷から、どういふ暮らし方をしたかということ、民俗学がクローズ・アップされてきたことを説き、新野の雪祭り、盆踊り、遠山の霜月祭り等が大変貴重なものであることを力説された。続いて折口信夫、柳田国男のことになり、柳田国男が、飯田に養子に入る決意をしたという飯田の魅力について面白く話され、彼が産業組合(現在の農協)をはじめて作ったこと、飯田の来迎寺にある殿様を諫めて諫死した家臣の立派な



▲武田太郎氏

松下会長 県議選 トップ当選

第九回統一地方選挙のトップを切る郡区県議選は、去る四月八日夕開票の結果、予想どおり会長松下逸雄氏

が連続トップ当選で六選を果たしました。六回目とはいえ、しみじみと感激も新たに喜びをかみしめられた

ことと思えます。心から祝い申し上げます。優れた識見と素晴らしい実行力を以って、今日迄の豊かな経験を活かし、今後益々県政の為に御活躍あらんことをお祈り致します。

松本

去る四月廿八日に松本で支部総会があり、私が出席しました。昨年も出席しましたが、本年は役所の移動学校の先生の転任の直後のため、集まるもの十五、六人でした。が盛会でした。特に元本校校長であった、平林、横内先生も出席して、ひさしぶりで元気な姿に接しました。私の同級今村義久君出席してくれました。幹部の湯沢勝君の努力で、(中)十九回の木下六郎さんから(高)二十五回菅沼建治君まで卒業生会も巾広くなりました。いよいよ来年は八〇周年統一創立一〇〇年も迫っています。飯田中

名古屋

五年程中断していた総会が、多数の要望により、五月十二日、名古屋商工会議所に、老、壮、青、女性の参加も得て盛大に行なわれた。今後益々発展のため原

三月八日ホテルリッチ横浜会館に於て井深功(中24)会長の総会が三石孝之(中31)幹事長により、原守国(中13)大先輩から若くは高校22回の諸君まで七十人程の参加を得て行われたが、本会の総会位の出席におどろく。老若の垣を超えて、若き日を、母校を又郷土を偲びつ、なつかしい話がはずみ意気相投合し時の過ぎるのを忘れ、別れがたい何とも言えない感情のこみ

支部だより

会話は母校、郷土を又友人を話題の中心に花が咲き、なつかしさに時の経つのも忘れ、持参したテープの校歌応援歌にも若き日を偲び、(副会長・長坂好忠)

去る五月二十日、喬木村役場のホールにて、多数の出席者の下に、松下会長も出席され、結成総会が盛大に開かれた。会長に現喬木村長松島五郎氏(中二十九回卒)が選ばれた。在村同窓生その数百名を越える。支部規約、役員等決定後懇親会で、校歌応援歌青竜会歌(郷友会歌)を歌い氣勢をあげた。(吉沢)

川路

去る三月六日、天竜峡しぶき荘に於いて川路支部総会が開催された。(出席者四十五名)役員改選、本部報告を行ない懇談会に入った。手作りの校歌応援歌集が配られ、声高らかに青春

完歩率99.5%をあげるこ

横浜

四月二十八日、第23回強歩大会を実施。今年、昼間強歩になってから二年目、絶好の天候に恵まれ、芽吹き

以前のよう祭りの必要素も少なく、服装も昨年

絶好の天候の下で 第23回 強歩大会

四月二十八日、第23回強歩大会を実施。今年、昼間強歩になってから二年目、絶好の天候に恵まれ、芽吹き

からでは経験のできない体験をするこ

本校赴任以来二十八年の長きにわたり勤務さ...

旧いことで恐縮ですが、昭和廿六年と申しますと、

飯田の風習が皆目判らず、加えて三人半の保体陣で千

人の諸君、而も一人で三年生四百人の授業、合併授業

や短縮授業をやってはいかぬもの、伝統のある学校と

かするから飯田へ来ないかと言われたのが二月でした。

いろいろ困難なこともあり、一度は断念したものの、や

つと赴任の挨拶ができたのは五月に入ってからで、授

業に入れたのは六月三日でした。

住家と申しても校内の片角にあった物置を改造し

た二間で、今の住宅感覚からはかけ離れたものでした。

通学生諸君には中まで丸見えでしたが、明るい環境が

何よりの救いで、乏しい乍らも気持を取り直し、何を

か親子四人の生活を始めた。然し年度途中でもあり、

じられず。

鶴川先生 思い出の記



いろいろなことがありましたが、年月がたつにつれて、走馬燈の如く

私の生活、感慨無量です。ただ長居させて頂いたとい

うだけで、お恥しい次第です。皆様方の

一層のご健闘を祈ってやみません。

なお、この三月一旦現職を去りましたが、引続いて

今年度本校で、講師生活をさせて頂くことになりました。

(鶴川 千里)

新制度入試が終わる

本年三月の大学入試は、共通一次テストを中心とし

た、新しい入試制度で行なわれた。従来と違って、受

験生にとっても、指導する側にしても初めてというこ

とと、その他にもいろいろ難かしい問題があり、その

ために私大も難化するなど

して、どんな結果がでるか、非常に心配していた。

しかし、結果を見ると、現役生は国立大・私立大

ともに、若干ではあるが数の上で前年度を上回るこ

とができ、質においても、東大・名大など県下の進学高

校が減少している中で、むしろ増加したなど健闘が目

立った。

明年は本年とほぼ同じ形式で実施されると思われ

るが、別の意味でなお一層厳しくなることが予想され

る。反省と検討を来年度の入試に生かすことにより、更

に本校のもっている使命達成に努力しなくてはならな

いと思っている。(進学係・菅沼邦人)

クラブ活動紹介

新学期がスタートして二カ月を経た現在、学芸部に

関しては、七月の高松祭を目標にして、調査・研究に

全力を傾注しているクラブあり、各種の大会に照準を

合わせて、練習に専念するク

ラブもあつて、今後の成果が期待される所です。

運動クラブについては、先ごろ高体連の南信大会が

行なわれましたが、昨年ま

で比較的安定した成績を残してきた軟式庭球部と卓球

部が、期待されながらも、日頃の練習の成果を十分に

発揮することができず、やや不本意な結果に甘んじた

ことは残念です。これに対しサッカー部は

このところ南信では敵なしの快進撃を続けており、県

大会での活躍が楽しみです。また、剣道部の活躍も目

覚ましく、それを反映して

か、同窓会館一階の剣道場は、放課後遅くまで熱っぽ

い練習が続き、女子部員の発する黄色い気合が道場内

にこだまして、殺気がみなぎっています。

更に、陸上部も着実に前進を続け、県大会へ十六名の選手を送り出すまでになり

◎活気満つ高松球児

四月の春季飯伊地区リーグ戦で優勝。春季リーグ五

年連続優勝と記録を伸ばしたが、春の北信越大会では

天竜光洋に惜敗。三年生三人、二年八人、一年十三人

と若いチームであるが、三年生中心に良くまとまりを

見せ、活気に満ちている。夏の甲子園県大会は、七月

二十日から上田と長野で開催の予定である。



＜春季南信大会成績＞

県大会出場種目

＜サッカー＞

優勝

＜卓球＞

男子個人戦...3位

＜庭球＞

個人戦...ベスト8進出

＜剣道＞

団体戦...準優勝

(男子)1位、3位、4位

個人戦... (女子)5位

＜陸上＞

総合...第2位

(男子)

3,000 W 1位、ハンマー投1・3位

1,600 R 2位、400 M 2位、400 H

2位、200 M 2位、走高跳2位、

5種2位、砲丸投3位、三段跳3位

円盤投3位

(女子)800 M 2位、400 M 2位

浪人学級

昨年度は講師の市瀬憲、山崎憲、鶴崎國の三先生の

ご熱心な指導により、四十四名中三十六名が、見事に

大学合格の栄冠を、獲得することが出来ました。

なお、本年度は新たに松沢伝十先生(飯中三十四回

卒業生)をお迎えして、去る五月十日、三十一名の受

◎お願

今年三月の卒業生が、卒業記念品として、東側に花

壇を残してくれました。これは、ブロックをはじめ、

大きさ・形式・植物などすべて先輩のものと同じ

で、これで正門の両側に立派な花壇の完成を見たわけ

です。ご厚意に感謝します。

次の校友会雑誌(校友会誌)お持ちになっていま

せんか?

三号(明三七発刊)

六号(明三九発刊)

九号(明四一発刊)

二四号(大七発刊)

二六号(大九発刊)

二七号(大一一〇発刊)

三六号(昭四・三発刊)

三八号(昭五・七発刊、菊版二倍)

四〇号(昭六・七発刊、菊版二倍)

五六号(昭二四発刊)

校史編纂の重要な資料になりますので、会員のご協力によって、探し出していただき、ご連絡下さるようお願いいたします。

記念館解体さる

昭和元年（一九〇六年）秋、飯田中学創立二十五年を記念して建設された「卒業生記念館」は、以来五十有余年の歴史を記して去る三月に取り壊されました。

その間、時には図書閲覧室として、時には本館が海軍工廠の工場となった際の教室や宿舎として、また近くは「スラム街」と呼ばれるクラブ部室として、幾多の生徒、同窓生とさまざまな春秋を経た、その老朽甚しく



在りし日の...



消えゆく.....

遂に解体されたわけですから、鉄の拳が、その屋根・柱を打ち砕く時には、そこにこめられたさまざまな青春の思いが悲鳴をあげる如く感じられて、胸痛む情景でした。今、取り残された土

台石が、重ねられた歴史の跡を偲ばせています。

記念館が果たした役割は、鉄筋三階建ての同窓会館、新図書館、昨秋新築された部室等によって満たされ、本校の充実の姿を示しております。

一般図書

- * 昭和53年12月8日
寄贈者=古橋 和夫
「炉辺夜話」奥三河稲武の歴史
古橋 和夫著
- * 昭和53年12月15日
寄贈者=加納 正雄（中32回）
「加納家の人々」
加納 正雄著、興文社
- * 昭和54年2月7日
寄贈者=高校第6回卒代表滝沢瑞穂
「25周年記念同期会」アルバム
KKフォトセンター
- * 昭和54年4月11日
寄贈者=吉江 清朗
「花木園芸」宮沢文吾著、八坂書房

寄贈品紹介



事務局

だより

(一) 維持会員

本年度の維持会費を納入していただく時期となりました。振替用紙と共に納入明細書を同封してありますので、よく確認していただき、忘れないうちに納入下されるようお願い致します。その際、振替用紙の通信欄には、御手数でも必ず卒業回数をご記入して下さい。

(二) 同窓会報の発行

御承知の通り会報は、年に二回（六月・十月）発行しています。昨五十三年十月発行の第十六号をご覧下さればお分りとなります。

(三) 役員改選

本年は会長以下全役員が改選の年になります。幹事、評議員を改選するようでしたら、七月末日までには、事務局にご連絡下さい。八月の定期総会に報告する必要が有ります。尚、改選にあたりましては、本会との連絡を容易にするために、学校の近在に居住している方を選んで下さるようお願い致します。

宝物さがし

「おい、見つかったぞ」と電話の声がはずんでくる。「ほんとうかい？よく見つけ出したもんだな」さっそく、竹村主任の車で山吹の竹中貞夫君（中33卒）のところへかけつける。

校友会雑誌（校友会誌）の明治四二年頃から大正の

初期にかけてのものが、どうしても見当らず、ほとほと困りはてていた。

ある日、ひょっこり編集室へ顔を見せた竹中君にこの事を話したところ、見事に所有者を探し出してくれた。ずいぶん頭をひねり、骨を折ったにちがいない。

出原の宮脇理一、吉田の宮島瑞穂のお二人が、ていねいに所蔵されていた。三

ている方々は、無料でこの会報を購読されている訳でその分を納入されている方方に負担していただいていることになりません。

この矛盾を無くすためにも、今迄に幾年か維持会費が未納になっていた方々は今年こそは、何年分でもよいのですから、是非納入下されるようお願い致します。

尚、完納下されている多くの方々には、この紙上にて改めて御礼申し上げる次第であります。

人でお宅へうかがって、第一〇号から第二二号までを宮島さんから、第一三三号から第一九号までを宮脇さんから拝借することができた。

宝物を探し出した気分です。宝物を帰途についた。こ

雨の中を帰途についた。これらの校友会雑誌のおかげで編集の仕事が、ぐんとはかどっている。宮島・宮脇竹中のお三人に心から感謝致します。

|| 校史編纂室

編集後記

同窓生の皆様方には、御健勝にて御活躍のことと存じます。同窓会報十七号が出来上りました。お届けします。母校の校門の両側にも花壇が立派に出来上り、つつじ、どうだんが綺麗に植っております。中四十四期生と高三十一回生の寄贈によるものです。毎朝その花壇を眺め、母校に対する同窓生の温情をしみじみと感じます。八十周年を来年に控え、母校も益々力強く発展しております。五月二十九・三十の両日、春季ク

御冥福をお祈りします。

中9回	徳永寅蔵	50.4.1
中13回	浦野三郎	54.2.10
中14回	塩倉正之助	53.11.11
中17回	北原謙司	53.11.5
中18回	鈴木栄一	53.10.20
中18回	宮沢三三	53.10.23
中22回	熊谷量蔵	52.9.1
中26回	下平 脩	53.10.9
中32回	松島堅治	54.3.27
中33回	佐々木清一	53.10.31
高5回	松下竜平	54.2.3
高18回	林 幸宏	54.1.7